

March / April / May 2024  
No.27

A Newsletter from SCGO-JSOG Project  
on Women's Health and Cervical Cancer

# カンボジア 女性のヘルスプロモーションを通じた 包括的子宮頸がんサービスの 質の改善プロジェクト

JICA 草の根技術協力事業(草の根パートナー型)

PROJECT FOR IMPROVING THE QUALITY OF  
COMPREHENSIVE SERVICES FOR CERVICAL  
CANCER

## 関係者インタビュー調査結果から 子宮頸がん検診普及啓発のための動画作成を開始

2024年2月、事業終了に向け、「関係者へのインタビュー調査」を評価の一部として実施しました。プロジェクトが行ってきた、健康教育から子宮頸がん検診・診断治療までの包括的な子宮頸がん対策の実施プロセスをレビューし、促進要因・阻害要因を明らかにすること、今後の効果的な普及啓発活動への示唆を得ることが目的でした。

事業実施者15名(カンボジア産婦人科学会(SCGO)医師・事務局スタッフ、プノンペン市教育局、小学校長、学区の教育局スタッフ)へのインタビューと事業対象者である小学校女性教員へのフォーカスグループディスカッション(FGD)を対面で行いました。

全体的にポジティブな声が多く、首都プノンペン以外の地域へ健康教育と検診を広げてほしい、と希望する声が多くありました。学校関係者からは、SCGO 医師による学校での健康教育を、女性教員だけでなく高学年の女子生徒向けにも実施してほしい、という要望もありました。調査の結果は、6月末、事業関係者と幅広い関係者(教育省、保健省、病院等)を対象とした事業成果周知ワークショップにて報告する予定です。

インタビューで抽出した今後の普及啓発活動のアイデアをまとめて SCGO に報告したところ、「一般女性向けの子宮頸がん検診啓発ビデオ」を作成することになりました。SCGO 医師が一般女性に向けて Q&A 形式で分かりやすく解説する構成とし、女性の身体の解剖や子宮頸がんについて(原因、危険因子、徴候と症状、予防方法、検診結果の解釈、治療方法、早期発見の利点、検診方法と受診間隔など)説明します。多くの人がアクセスできる子宮頸がん検診普及啓発のための動画を作成する準備を進めています。

(国立国際医療研究センター 国際医療協力局 神田未和)



小学校の先生方への FGD をしている様子



学区の教育局スタッフにインタビューしている様子



SCGO 医師にインタビューしている様子

## 第76回日本産科婦人科学会学術講演会へのSCGO医師の参加、 本機会を活用してのJICA東京事業担当者との対面での会合

2024年4月19日から21日の3日間、横浜で開催された第76回日本産科婦人科学会学術講演会にカンボジア産婦人科学会(SCGO)から医師3名が参加しました。3名中2名は中堅医師で、それぞれ国立クメール・ソビエト友好病院と国立カルメット病院から参加し、国際学会でポスター演題発表を行う初めての機会となりました。この2名の参加にあたり、演題登録、ポスター発表のためのスライド作成と準備を進める際に、日本産科婦人科学会の森蘭代医師には技術的な指導をいただきました。インターナショナルセッションポスター発表当日は、多くの聴衆がいる中で発表と質疑応答を行いました。また、学術講演会期間中は、他にもInternational Workshop for Junior Fellowsでの発表、英語講演の聴講なども行いました。

SCGO医師の日本滞在期間中に、JICA東京の本事業担当者とSCGO医師3名が対面で対話する機会がありました。(日時:2024年4月17日 場所:国立国際医療研究センター 国際医療協力局) SCGO理事長が事業進捗と成果概要をプレゼンテーション形式で紹介し、事業で予定されている成果がほぼ達成されていること等、説明されました。また、7月の事業終了までに予定されている以下の活動について紹介がありました。

- ① 事業成果を一般女性に幅広く周知するためのビデオ作成の準備が進んでいること
  - ② 子宮頸がん検診についての知識と技能を深めた SCGO 医師が事業により十分に知識・技能を得たという認定をするためのテストが5月に予定されていること
  - ③ 6月下旬には大型会合が計画されており、事業成果を幅広い関係者に伝える予定であること等
- その後、JICA 東京事業担当者と意見交換を行うことができ、関係者が直接情報共有を行う貴重な機会となりました。

(国立国際医療研究センター 国際医療協力局 松下友美)



写真上段左:インターナショナルセッションポスター発表の様子

写真上段右:International Workshop for Junior Fellows 参加・グループ内での発表の様子

写真下段:SCGO 代表3名と、JICA 東京事業担当者様との対面会合の様子

## 「カンボジア女性のヘルスプロモーションを通じた包括的子宮頸がんサービスの質の改善プロジェクト」事業関係者による対面会合が開催されました(2024年4月19日 横浜)

第76回日本産科婦人科学会学術講演会の会期中に、日本産科婦人科学会(JSOG)とカンボジア産婦人科学会(SCGO)の本事業関係者の対面会合が開催されました。JSOGからは10名、SCGOからは3名が参加し、双方の学会理事長も参加しました。

JSOG 加藤聖子理事長の会議開始のご挨拶に始まり、参加者自己紹介、SCGO クム・カナル理事長による、事業成果のプレゼンテーションが行われました。現時点で「事業で予定していた成果」はほぼ達成されており、「6月の成果周知の会合」など残りの活動予定が説明され、JSOGからの技術支援に対する感謝が述べられました。また、事業成果である「健康教育、子宮頸がん検診、子宮頸がん早期治療」のパッケージを、7月の事業終了後はSCGOがリードして、カンボジア国内で地方展開していきたい、という意気込みが述べられました。

その後、参加者により、確認の質問や協議を行い、今後の協力可能性等についての検討を行いました。本年6月下旬に、JSOG 事業関係者がカンボジア現地を来訪する際に、引き続き、協議を行うこととなり、大須賀穰副理事長(渉外担当理事)のまとめで会合を終えました。

(小原ひろみ 国立国際医療研究センター国際医療協力局、  
藤田則子 長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授 本事業の事業コーディネーター)



対面会合の様子



左から SCGO Kanal 理事長、Ly Chhiv Leng 医師、Huy Vinnika 医師



会合終了後に記念撮影。左から神田助産師(NCGM)、小原医師(NCGM)、藤田医師(長崎大学)、万代副理事長(JSOG)、大須賀副理事長(JSOG)、Kanal 理事長(SCGO)、Huy Vinnika 医師(SCGO)、加藤理事長(JSOG)、木村監事(JSOG)、森渉外委員会主務幹事(JSOG)